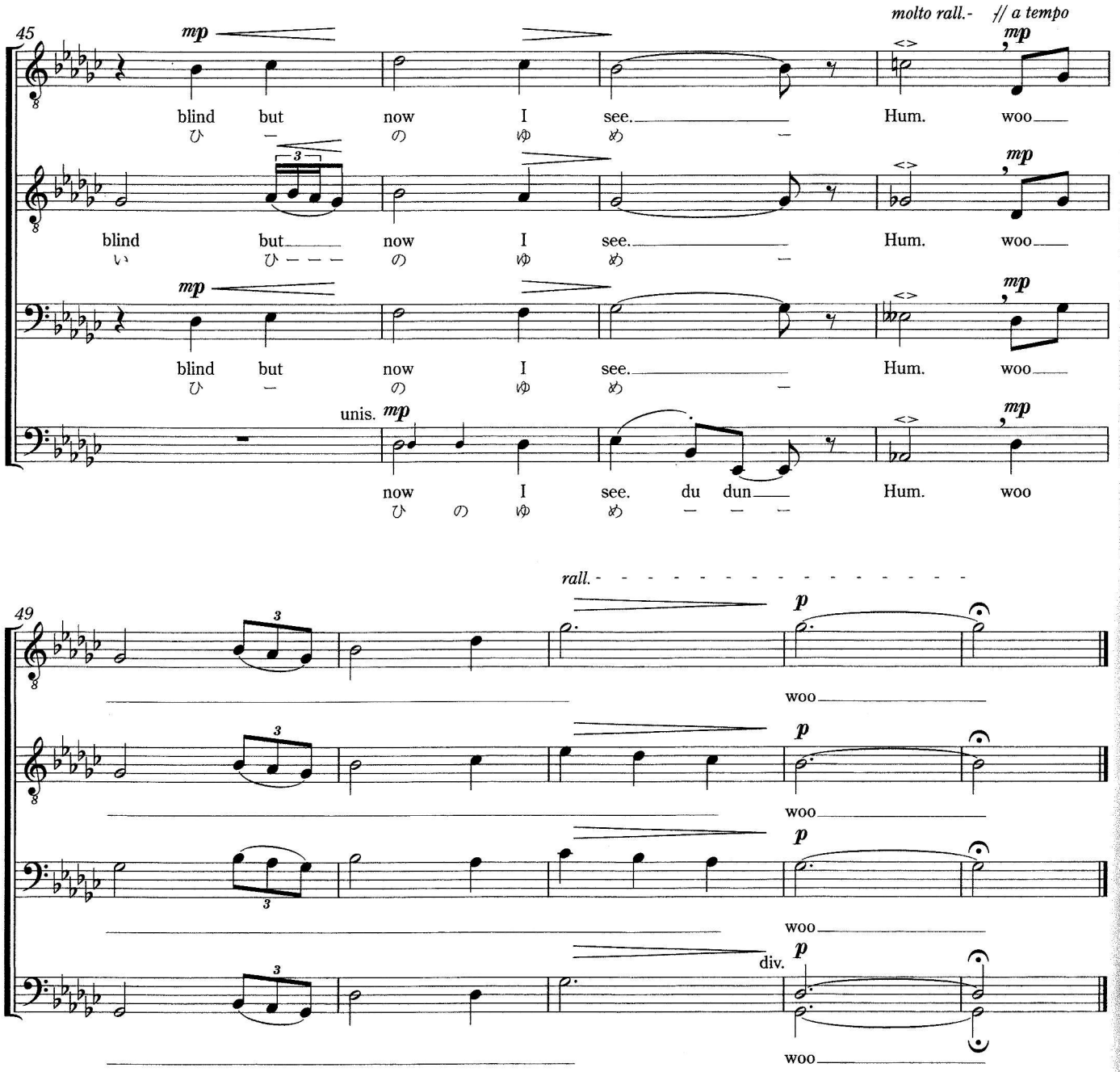

この、優しく美しい旋律は、どのようにして生まれたのでしょうか。苛酷で厳しい環境にある自らのいのちを癒す心――のあらわれなのでしょうか。“Amazing Grace”への感謝の心、愛の心を感じながら、そして心の奥底から溢れ出る祈りのひびき、光のひびきの中へ溶け込むように唱ってみてください。

（金井美雪）

《埴生の宿コメント》

明治時代になると多くの外国作品が紹介されるところとなりましたが、日本の訳詩第１号とも言うべき作品がこの「埴生の宿」（貧しい粗末な家）で、里見義（さとみ）の日本語詩は作詩と言うより、原詩に忠実な訳詩と言うべきものです。原曲はHome Sweet homeという、ビショップが作曲した歌劇の中の１曲で、この曲の美しさが大評判になり、後に歌曲として独立したと伝えられています。（清水雅彦）